

令和6年度第1回千葉市市民自治推進会議 議事録

1 日 時

令和6年8月27日（火）15：00～17：15

2 開催場所

千葉市役所 XL会議室201

3 出席者

（委 員）山本佳美会長、粉川副会長、青柳委員、高橋委員、玉木委員、西田委員、林委員、
眞智委員、山本俊子委員

（事務局）安部市民自治推進部長、古屋市民自治推進課長、乃万課長補佐、平岡主査、尾花主事

（欠 席）浦本委員、蟹江委員、鈴木委員

4 議題

（1）令和5年度千葉市市民自治推進の実施状況（案）について

（2）市民活動に関するWEBアンケート設問項目（案）について

5 議事の概要

（1）事務局から議題（1）について説明した後、審議、意見交換を行い、承認を得た。

（2）事務局から議題（2）について説明した後、審議、意見交換を行い、一部加筆修正を行うこととした上で承認を得た。

6 会議の経過

【議題（1）令和5年度千葉市市民自治推進の実施状況（案）について】

○山本会長

議題（1）「令和5年度千葉市市民自治推進の実施状況（案）」について、事務局より説明願う。

○古屋課長

（資料に沿って説明）

○山本会長

コレクティブインパクトの5要素を踏まえた事業の振り返りに初めて取り組んだが、これに関して、委員から意見や質問等はあるか。

○林委員

資料2ページに、各区分における結果一覧があるが、「3：市民自治を推進するための工夫をして取り組んだ」を付けた事業が少ない印象である。その点を事務局としてどう考えているのか。

また、このような3、2、1の評価方法の場合、本当は2だが、3が少ないからこれだけは3にしようというように、恣意的になるようなことがないか。

○古屋課長

まず、「3：市民自治を推進するための工夫をして取り組んだ」を付けた事業が少ないという点について、特に令和5年度千葉市市民自治推進の実施状況（案）における大区分「3市民の自立的な活動を推進するための取組み」のような事業に関しては、長期に渡って継続している事業もあり、コレクティブインパクトの要素のうち馴染みにくいものについては、工夫して取り組んだとするまでには至らなかったものと考えている。

恣意的になるようなことがないかという点については、昨年度、事業の評価方法について検討し、委員の皆様と議論いただいた中で、市としての評価を一律にするのは難しいという意見を踏まえ、所管課において自己評価を行う形とした。その上で、所管課の評価に恣意的な部分があるかどうかという点を事務局から指摘することは難しいと考えている。

○林委員

粉川先生に伺うが、例えば大区分「1市民参加の取組み」の中で、「3」が0のものがいくつかあるが、これらは特に工夫をして取組みにくいものなのか。

○粉川副会長

今回のデータを基に中身を検証して、本当に馴染まない部分と馴染むかもしれないが取組みはなかった部分を切り分けて、この評価結果そのものをレビューする作業が必要である。

もしよければ、この評価方法を提案した私の方でその作業を行い、またこの会議等でお示しをして、市も参考の資料にできるような流れにしていくと、本当に馴染まないのであれば次年度はこの区分はやらなくていいよね、というようなこともできるので、そのような取組みができればいいと思う。

○玉木委員

細かいことは別にして、全体的に説明を伺った上で、各所管課の担当者がコレクティブインパクトの5要素を踏まえた取組みについて自己評価したということに大きな意義があると感じている。

○青柳委員

この要素が提示されたことが非常に意義深いことで、すごく進んだのではないと思う。ただし、事業所管課にとって答えにくさはあったと思うので、回答のレベル感を提示して、そのどれにあたるかというようなイメージがあると、回答する時にいいのではないと思う。

例えば、アジェンダを提示したのか、話し合ったのか、というように取り組んだ中でもどの程度なのかということが提示されていると、良かったかもしれない。

また、今回の結果を受け、普段大学でやっているものと同様に、「共有された測定システム」に関して非常に難しいのではないかと感じた。今回、工夫して取り組んだとした事業が少ないのは、イメージのしにくさが要因としてあるかと思う。本来は、アジェンダを設定した時にそれを何で測るかを提示す

ることなのだが、例えば、地域を活性化するために祭りを開催した際に、祭りの参加者へのアンケート調査そのものを測定システムと解釈されてしまうこともある。満足度は1つの指標であり、そのアンケートで祭りの満足度が高いということが活性化と無関係とは言わないまでも、祭りの目的に照らして本当に知りたかったことなのかというところでズレが生じてしまう可能性があるのも、それで測定したということにはならないこともある。そのため、測定システムについて例が示されていたり、今回の好事例の中からそれが提示できたりすると、評価する時によりわかりやすいと思う。

○古屋課長

どのように所管課が解釈し、回答してもらうかは難しく、昨年度にご助言をいただいたかと思うが、依頼をする際には各要素の記載例を事務局でいくつか提示した。ただ、今回が初めての試みであったため今後改善の余地はあると考えている。

○高橋委員

それぞれの事業には目的があり、その上で市民自治の推進という要素を考えて工夫しているかというところで、そもそもなぜ市民自治を推進しているのかという目的を各事業の所管課に説明しているとは思いますが、その目的を頭に入れた上で担当者がこの点数をつけているかが気になっている。

また、今回の市民自治を推進するための取組みの事例を、次回同じように点数をつける際に、所管課に共有してもいいのではないかと思います。この事例があるなら、自分の事業でも「3」をつけてもよかったかもしれないというように、参考になるかと思う。

○古屋課長

本来の事業の目的に適っているかという点と、その中で市民自治の取組みがなされていて、それが事業目的にどのくらい活かされているかという点を、各所管課にこのような形で聞いたのは初めてなので、事例の共有の仕方は検討するが、こういう事例があるのであれば自分たちもできるというように思っただけのように考えたいと思う。

○山本会長

次回にはより多くの所管課が答えやすくなっていけばいいと思う。他に意見はあるか。

○眞智委員

前回は指摘したが、今回の令和5年度の報告では、各所管課がコレクティブインパクトの各要素について理解した上でやっていないので、自己評価を付けるのが難しかったのではないかと思います。

そして今回の事例の中で、違う要素の事例ではないかというものや、「共通のアジェンダ」の要素に所管課同士の情報共有を記載しているものなどについては誤りであると思うので指摘した上で、他の課にも良い事例を示して、来年度以降の評価では、それぞれの要素に合致したものを所管課で判断して、工夫して取り組んだことに「3」を付ければ良いと思う。

○古屋課長

こういったものが対象となるかという点についてはなるべく所管課がわかりやすいように事務局でも検討をして所管課に取り組んでいただけるようにしていきたいと思う。

○西田委員

評価は単純でいいと思うので、取り組めなかったのであれば取り組んだ方がいいと思う。

「3：市民自治を推進するための工夫をして取り組んだ」というところは、単に「3」をつけるだけではなく、具体的な記述を求めたのか。

○古屋課長

依頼時に、「3」をつけた場合にはその具体的内容についての記述をお願いしている。

○西田委員

今回は初めての試みだったため、「どんなことを工夫したと言っていいのだろうか」という思いが所管課にあったと思うが、今回の結果が事例となり、年を重ねていけば、より具体的になっていくと思う。

また、8ページの防災マップ作成の取組みを例にとると、作成を希望した団体が自ら街を歩いている写真や、みんなで作ったマップの画像などの具体的なビジュアルを示すことで、他の人も好事例な取組みとはどういうものであるかを理解し、取組みが盛んになっていくのではないかなと思う。

○玉木委員

市民自治を推進するための取組みの好事例を、8、9ページにまとめていて、「3」をつけた中の一部を抜粋して記載していると思うが、他の課の事例がきっかけとなり刺激となって、もう少し工夫してみようと活性化し、レベルが上がっていくということが重要だと思うので、庁内へ共有する際には、抜粋したもの以外についても共有した方がいいのではないかなと思う。

○山本会長

私もそのように思う。庁内への共有の仕方については、是非事務局でご検討いただき、また会議でも必要ところで議論するというのがいいと思う。

○林委員

8、9ページに書いてある好事例を掘り下げていくことで、例えば11ページの町内自治会の加入率を上昇させる方向となるように努力してほしいと思う。

○粉川副会長

何より、今回結構大変な取組みをしていただいた事務局に御礼を申し上げる。

先ほど玉木委員が発言したこととも重なるが、ある種の評価でもあるこのような作業は、結果の妥当性をチェックするというよりは、作業そのものがトレーニングや教育ツールになるという、非常に重要

なものであるので、1回このような形でやってみて、データが出てきたことは、まさに一つの良い刺激になったと思うし、会議資料に関しては庁内での共有の仕組みを考えた方が良いと思う。そうすることで、委員の皆様からもあったように、こんなことをやれるのか、こんなことも書いて良いのだという気づきにも繋がると思うので、その点は是非ご検討いただきたい。

もう一つ、あくまでも今回は事業そのものの価値の評価をするのではなく、協働の側面でのチェックをしていただくためにコレクティブインパクトという概念を引っ張ってきているが、例えば、共通のアジェンダであれば、そのアジェンダそのものがきちんと書けているかというよりは共通していたのかという部分、共有された測定システムであれば、測定システムがみんなに共有されていたのかという部分のプライオリティが高いということを各所管課に依頼する時にもう少し細かく示しても良かったと思うので、来年度に向けて、会議での意見も踏まえて修正できると良いと思う。

また個人的に、「継続的なコミュニケーション」の部分が意外と弱いという印象である。これは単年の事業や単発のワークショップのような取組みであるために継続的なコミュニケーションができないというのは確かにその通りではあるが、そもそも事業の組み方としてそれで良いのかという点は今後の市民協働を考えていく上での割と重要なポイントであると感じている。

何より1回トライアルをしたということは非常に良いことであり、私も協力するので、もう少しきちんとレビューをして、会議にフィードバックするとともに、市で活用し、他の自治体への情報発信という可能性も一緒に考えていければ良いと思う。

○西田委員

各所管課で評価に取り組んだ方たちが集まって、意見交換をすることで、気付きの気付きを積み重ねていき、共有や理解が深まるのではないかと思います。

○山本会長

ある部署でこの評価をした方が、異なる部署でまた評価をするということも増えていくと思うので、常にブラッシュアップしていくために、話し合う場があれば非常に良いのではないかと思います。

これから5分休憩とする。

(休憩)

○山本会長

再開する。 それでは議題（1）に関して、原案の通り承認ということでよろしいか。

(異議なし)

○山本会長

議題（1）「令和5年度千葉市市民自治推進の実施状況（案）」については承認された。

【議題（２）市民活動に関するWEBアンケート設問項目（案）について】

○山本会長

議題（２）「市民活動に関するWEBアンケート設問項目(案)」について、事務局より説明願う。

○古屋課長

（資料に沿って説明）

○山本会長

本日は設問項目を委員の皆様で検討し、決定したいと思う。意見や質問等はあるか。

○林委員

資料のように枠の中にある設問が実際の画面に出てくると選択肢が多くやりにくいと思う。①、②、③のような番号は、選択肢をランク付けしているような印象を受けるため、番号をなくして、四角などを記載し、チェックしてもらう形の方がやりやすいと思う。

○山本会長

おそらくこれは、市のWEBアンケートの形式によると思うが、事務局はどう考えるか。

○古屋課長

実際のWEBアンケートの回答の選択肢は、番号ではなく丸となっており、そこをクリックして選択する形式になっているので、ご指摘のような問題は生じないと考えている。

○山本会長

ここからは、設問毎に１つずつ決めていきたいと思う。

まず、設問（１）について、（１）－１と（１）－２のどちらにするか、あるいは、答えにくい等の意見が多ければ変更の余地があると思うがいかがか。

○眞智委員

この設問でも良いと思うが、もっと前提として、千葉市市民自治によるまちづくり条例（以下、「条例」という）を知っているかという設問や条例の前文を読んでもらい、その上でまちづくりに関わるべきはどなたですかという感じの設問を入れて欲しいと思う。町内自治会もNPOも担い手不足が問題となっており、そのマインドを変えてもらうために、条例の前文を読んでもらい、このアンケートに答える方は意欲のある方が多いと思うので、そういう方に訴えていくという要素もあっていいと思う。資料にある設問（１）もそれなりに意味のあるものだと思うが、検討してほしい。

○古屋課長

今回のWEBアンケートは、市民自治推進に係る市民の意識や活動等の調査を目的としていたので、眞智委員がおっしゃった設問は想定していなかった。上限７問までという制限がある中で設問を追加す

るのは難しいので、例えば、条例に関するホームページを参考として掲載し、ご覧いただくような形はいいか。

○眞智委員

条例を全部読むのは時間がかかるので、前文だけでも市民に把握してもらい、その上で色々やってもいいというの、この会議としても取り組むべき課題なのではないかと思うので、お願いしたい。

○山本会長

それでは、アンケートの導入部分で、条例の前文を参考としていただくような形にしていればと思う。

他に、設問（１）について意見や質問等はあるか。

○青柳委員

設問（１）－１の方が良いと思う。お付き合いというのが何を指しているのか、「よく」や「全く」をどの程度と想定するかは回答者に委ねることになるが、人数を問わずそういったお付き合いがあるかどうかを聞いているものとなっている。

設問（１）－２の方の最大の問題は、面識と交流の両方を同時に聞いているという点である。全員のひとと面識がある人が、その全員と交流があるとは限らないと思う。また、この４つの選択肢を挙げるということは、１人のひとと付き合うよりも、たくさんのひとと付き合っているかどうかという、範囲の広さや人数を聞いているが、どこまでを近所とするのかが抽象的であり、「ほぼすべて」というのもよくわからないので、（１）－２よりは（１）－１の方が良いのではないかと思う。本当は、「挨拶をする」、「お土産を渡す」、「食事をする」、「家を行き来する」等の具体的な行為を聞いて、そういうことをする人があるかないかを聞いた方がよいとは思いますが、項目数が増えるので、近所に付き合いをする人があるかないかということを知ることが、近所付き合いの程度という意味では良いのではないかと思う。

○粉川副会長

設問（１）－１は、内閣府の調査に合わせて作成していると認識しているが、その調査と項目を合わせた方が比較しやすいと思う。

○古屋課長

設問については、内閣府も含めて他自治体等での調査を参考に検討し、案を作成した。

○山本俊子委員

（１）－１が良いと思う。しかし、自分が答える時に、例えば、挨拶はしているし顔も知っているがそれを「ある程度おつきあいがある」と答えていいのかと悩んだので、具体的なガイドラインみたいなものがあるといいが、キリがないとも思っている。

○山本会長

では、回答者に委ねられる部分もあるものの、内閣府の調査に合わせるというところで、これぐらいの緩やかなものでまずは調査をし、経年変化を見てみるということで、(1)－1にしたいと思う。

(異議なし)

次に、設問(2)についてはいかがか。

(意見なし)

○山本会長

それでは設問(2)は事務局案の通りで決定とする。

設問(3)についてはいかがか。

○青柳委員

質問文についてはこれでいいと思う。選択肢については、4番目だけ必要性があるかないかを聞いており異質である。特にこだわりがなければ、スタンダードに「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」という形で揃える方が後々分析する時に良いのではないかと思う。「とてもそう思う」、「そう思う」、「そう思わない」、「全くそう思わない」でも良いが、「とてもそう思う」は表現が強いと思う。

○古屋課長

いただいたご意見を基に修正する。

○山本会長

他の委員の皆様も青柳委員からの意見の通りに修正するという事でよいか。

(異議なし)

○山本会長

それでは設問(3)については修正をお願いします。

設問(4)についてはいかがか。

○青柳委員

例えば、町内自治会の活動への「参加」について、ゴミ捨て場の清掃など割り振られた活動は「参加で良いと思うが、PTAや保護者会、老人会、老人クラブについて、若い人であれば老人会、子育て世代でなければPTAはそもそも対象ではなく、対象外の人がいる中で、活動への参加経験があるかどうかを聞くことになり、分析する時に難しい設問だと思う。

○山本会長

WEBアンケートは何歳から何歳までの人が答えることになっているか。

○古屋課長

特に年齢の制限はなく、市内在住・在勤・在学の方々を対象とした調査となっている。

○山本俊子委員

例えば、児童委員は定員が決まっているので、そもそも対象となる人が少ない。そういう意味でも確かに年齢的な部分以外にも、色んな属性を持っている人に聞く時に、なかなか難しい設問だと思う。

ただ、とにかくどこかに引っかかったことがあるか、というざっくりとしたことを聞きたいとしたら、これが地域の活動ですよと言えるものをなるべく入れ込んで答えてもらう形で良いかと思う。

○青柳委員

「団体の役割を知っているか」や「そもそも存在を知っているか」、「どんなことをやっているかイメージが持てるか」ということであれば多くの人が回答できると思うが、活動に参加した経験となると、色んな制約があるし、おそらく非常に低い数値結果となると思う。全体の中で、それが経年変化でどんどん増えていくという目標を立てられるのかどうかという点で心配である。

○山本俊子委員

商店街なども街を元気にする活動の1つであり、避難所運営委員会や消防団のようなものもある。こんなにあるまちづくりに関わる活動をあなたは知っていましたか、ということを訴えるために、選択肢の数を増やすのは良いかもしれない。

○山本会長

団体の役割を知っているかという聞き方もあるのではないかという青柳委員のご意見もあったが、参加状況を把握すべきなのか、それとも、団体の存在やその地域活動に関心があり、情報として持っている市民がどれだけいるのかというのを把握することで良いのか。設問（4）では知っているかを問うこととして、設問（5）は案のままにしても、設問としては繋がると思う。

○高橋委員

ここに記載のある団体はみんな事業をやっていて、例えば、町内自治会のお祭りに参加したことがあるかというような聞き方もあると思う。団体の役員になっているかいないかというよりは、その事業に参加したことがある場合には団体の役割を知っているか知らないかという聞き方でも良いと思う。「参加」というのがどういう参加を指すのかというところが曖昧であるように思う。

○古屋課長

事務局としては、設問（4）については条例第4条の「市民の役割」のうち、第5項に関する部分を

把握することを意図したものである。委員の皆様がおっしゃる通り、「参加」の捉え方は市民の皆様それぞれ違うと思うが、「できるところから取り組み、協力するよう努める」と条文にもあるように「参加」の解釈については市民にお任せするということもあり得るかと考えている。

○山本会長

主催者もしくはボランティアとして運営側に関わるのか、お祭り等に参加者として参加するのかは、やはり違うものである。

事務局として意図しているところは運営側のイメージであると私は受け取ったが、事務局側のニュアンスを補足してこの設問とするのか、もしくはもっと「参加」の範囲を広くした設問とするのかについてどう考えるか。

○古屋課長

事務局としては、運営側に携わったことがあるかというところを意図した設問である。

○山本会長

それは、役員ではないが、ボランティアとして当日ブースの担当を頼まれたら、「参加」に含まれるということか。

○古屋課長

役員に限ったことではなく、そのような活動を自主的にやっていただく側に参加をしたということであれば、該当すると考えている。

○山本俊子委員

例えば、子ども会に自分の子供を入れるというのも参加である一方で、子ども会の役員としてイベントを運営することとは掛けるエネルギーが全く違う。また、民生委員は加わるだけで自動的に一定の仕事量がかかる。それぞれに差があるため、参加したことがあると答える人の幅がだいぶ違ってくるだろうと思う。

○高橋委員

アンケートにどう書くかはともかく、例えば、PTAや老人会はイベントに参加するだけでも会費を払っている。町内自治会も輪番により役員をやるかもしれないが、それまでは回覧板を見るだけで、それでも会費を払っている。「参加」というのはお金を払って自分の意思で団体に参加しているという認識と思った。

○粉川副会長

単純に参加の定義を書けば良いと思う。千葉県の子政に関する世論調査では、市民活動団体の活動への参加経験に関する調査で、参加について細かく定義している。千葉の場合は団体が提供するサービスの利用やイベントへの参加も入れているが、千葉県で使用している定義を借りれば話は早いと思う。

○眞智委員

ここに出ている団体は、市の主催する会議のようなものに呼ばれている団体が主なものになっていると思う。「スポーツ・文化団体」はあるが、「趣味サークル」を選択肢に入れることへの妥当性に疑問を持っている。やはり参加の定義をはっきりしないと、回答者の意識によって違ってしまうので、そこは統一した方がいい。

○古屋課長

「趣味サークル」については、公民館やコミュニティセンターで活動しているサークルを意識した選択肢である。

回答者によって理解に差が出てしまうのは、本来の目的を達成できなくなるかもしれないので、いただいたご意見の通り、設問において「参加」についての定義付けを行う修正をした上で、選択肢は資料の通り実施したいと思う。

○粉川副会長

「趣味サークル」は、ソーシャルキャピタルの調整に寄与するものなので、入れて良いと思う。

○山本会長

それでは、設問（４）については「参加」の定義の追記をお願いする。

設問（５）についてはいかがか。

○山本俊子委員

最初の行の冒頭がすごく気になる。「仕事の事情等は考慮せずに」と敢えてこの説明を加えたのは、状況さえ許せば参加したいという人を拾い上げるということか。

○古屋課長

家庭等の事情によって実際はできていないとしても、参加したいという意向があるかをお答えいただきたいという趣旨である。

○山本会長

そのような意図があるとして、案の通り入れた方がいいか。

○林委員

例えば、親の介護をやっているからできないけれども、その事情が解消されれば参加してみたいという人を拾えると思う。

○山本会長

設問（５）については事務局案の通りでよいか。

(異議なし)

○山本会長

それでは、設問（５）は事務局案の通りで決定とする。

設問（６）についてはいかがか。

(意見なし)

○山本会長

それでは、設問（６）は事務局案の通りで決定とする。

設問（７）については（７）－１か（７）－２、もしくはその両方にするかということだがいかがか。

○青柳委員

資料７ページのように一度に聞くことは理解が難しいのでやめた方が良いと思う。

そうすると、（７）－１と（７）－２どちらかということになる。

（７）－１は、選択肢⑩以外についてはこういうことが妨げになっているのだなということを知ることとはできても、回答から得られた結果を市の施策に活かすことは難しいと思う。市が今後の事業展開や必要な方策について把握することや方向性を検討することを目的としている場合に、それぞれの選択肢に市が関わるができるかという意味では、（７）－２の方が良いと思う。

一般的な調査と比較してこの設問の内容は少々難しいように思うが、回答者自身が市のホームページからWEBアンケートに答えるということで、このレベル感でも答えることが可能であると思う。

○古屋課長

回答が出た時に、施策にそのまま反映しやすく方向性がわかりやすいというのは（７）－２であるというご意見だと思うが、確かにその着眼点は必要だと思う。

○眞智委員

今、有償ボランティアという考え方が出来つつあり、そういう方向に行かざるを得ないのではないかと個人的に思っている。（７）－１の選択肢にも「経済的負担が大きい」というものがあるので、そのような要素があった方が良いと思う。

○山本会長

そうすると、（７）－１にある「経済的負担が大きい」という項目に、代わるようなものを（７）－２に入れてはどうかということか。

○眞智委員

その通り。

○山本会長

「市民活動団体への補助金」というのが選択肢①にあり、これは団体をやっている人としてはイメージができるが、個人でのボランティアということになると、相談体制や保険制度はあるが、項目として入れることは少し難しいと思う。

○西田委員

それは自由記述のところで補えないか。

○山本会長

項目を検討する余地はあると思うがいかがか。

○古屋課長

市の事業として、個人の方への経済的支援を項目出しして載せるのはなかなか難しいと思っており、もしそういうご意見があるのであれば、自由記述でお書きいただくこととしたいがいかがか。

○眞智委員

実際、令和5年度千葉市市民自治推進の実施状況の報告の中でも、有償ボランティアをやっているところもある。多くが70歳まで働くことになっている中で、若い人であればあるほど、ボランティアに対して、仕事をしないでなぜボランティアをするのか、1円にもならないことをなぜやっているのかということを言われると若い人から聞くことがある。そのため、そのようなマインドを定点観測できるように金銭的な問題が障害になっているということを、選択肢に加えた方がいいと思う。

○古屋課長

適切な文言を即答できず申し訳ないが、事務局で検討した上で選択肢に追加するという対応でよいのか。

○山本会長

民間の助成制度は全くここに入っていないが、市民の意向を聞く上では、市がやるということに限らず、少し表現を変えるのもいいと思う。

それでは、(7)－2を少し修正する形で設問を設定するということでよいか。

○粉川副会長

それを前提に、(7)－2にするのであれば、選択肢⑩の「市民活動団体に対する寄附制度」というのは、言葉の意味が不明なので、市民活動団体に寄附をしやすくなる税制優遇制度等、具体的に書いてほしい。

○山本会長

そうすると、少し加筆修正していただく項目があるが、設問（７）に関しては（７）－２に決定し、細かい文言の修正をお願いするということによいか。

（異議なし）

○山本会長

それでは、これで議題（２）は終了とする。

その他事務局から何かあるか。

○古屋課長

本日の会議録は、後日電子メールにて送るので確認をお願いする。

また、次回の会議は令和７年３月下旬に開催予定である。

（終了）